

後記

ましたが、いずれ別の形で御執筆なされる旨の御意向を伺っておりますことも、付言申し上げます。

1 加藤久雄教授の御退職記念号が、この度、無事刊行のはこびとなりました。法学研究編集委員会では、永年の慣例として、御退職になられる先生方への法学研究会からの感謝の微意として、退職記念号の刊行を企画してまいりましたが、今回もまたその一貫として企画・刊行となりました。

本記念号の刊行をもちまして、法学研究会として加藤教授の永年にわたる法学部への研究・教育への多くの御貢献に深甚からの感謝の意を表した次第です。先生の御清祥にてのますますの御発展と御活躍を心より祈念申し上げます。

3 なお、次年度には、編集委員会では、引き続き、二つの御退職記念号の企画が進行しております。通常号の刊行に加えて、単年度に二つの記念号という大部の作業となりますので、法学部の先生方にも御多忙中のところ大変恐縮ではございますが、何卒事情御賢察の上、なお一層の御協力・御支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

4 最後にりましたが、記念号の刊行に際し、慶應義塾大学出版会編集部や法学研究会事務局の方々には、いつもながら様々な御尽力をいただきました。編集委員会として、記して感謝の意を表します。

平成十九年十二月

法学研究編集委員会

記
後
も、多くの先生方に多大の御協力を賜りました。法学研究編集委員会として、心より感謝申し上げます。また、御執筆を御快諾されたにもかかわらず、諸般の事情により、本記念号ではやむなく御辞退された何人かの先生方もおられ